

〔ご案内〕

**【エコ・ライフサイエンス研究会】
第1回シンポジウムの開催要項とプログラム**

令和4年10月

NPO法人
21世紀の食と健康文化会議 事務局

第1回シンポジウム開催のお知らせ

- ◇ 食と健康の正しい発展と国民総長寿社会を目指して活動を続けてまいりましたが、2020年初頭から始まった新型コロナ・ウイルスのパンデミックは人類を破滅に導く「変異株」の出現という無限の可能性を秘めたエマージングであります。
- ◇ 今や我々は、未曾有の混乱した状態の世界で彷徨っています。そうした憂慮すべき事態を鑑みて「エコ・ライフサイエンス研究会」を立ち上げました。研究会の基本コンセプトは『ガイアを構成する生きもの全体の共存を希求すること』にあります。このコンセプトを「大きな物語」として、その大きな物語を実践的な「小さな物語」で支えていく活動を目指しています。

研究テーマの基本コンセプト

■ 将来の正しい発展を見据えた大きな物語

「生きもの」全体の共生を目指したガイアの構築と育成支援活動

■ ステップワイズに実施し、成果を上げていく小さな物語

第一テーマ ウイルスによる感染予防

第二テーマ 免疫学を取り込んだ「新しい栄養学」の構築と支援活動

第三テーマ 地球環境を配慮した「新しい家畜産業」の提案と支援活動

日時： 2023年2月7日
13時～18時まで

会場： 東京法経学院 大教室

所在地： 東京都新宿区市谷本村町3-22
ナカビル 1 F

交通： ○JR総武線 市ヶ谷駅 下車
○地下鉄有楽町線・南北線
市ヶ谷駅 下車

参加費： 1人 3,000円

☆参加お申し込みは下記メールへ

①shimazaki@21shoku-ken.jp (本部島崎)

②sunohara@csi-net.co.jp (事務局春原)

本人氏名・本人個人あるいは本人所属組織への
連絡先明記

主催；NPO法人21世紀の食と健康文化会議

<シンポジウム開催の趣意と御願い>

- ◇この度の新型コロナ・ウイルスのパンデミックは、人類をも破滅に導く、【変異株】の出現という無限の可能性を秘めたウイルス特有の進化を武器としたエマージングなのです！
- ◇このエマージングを[生きもの]全体、そして社会に受容されるように解消することが人類、そして生命科学の根幹をなす喫緊の最重要命題なのです。
- ◇にもかかわらず、物質文明という自滅の刃と動物よりも知性の面で優れているとする人間中心主義に溺れている愚かな人類は、ガイアという極限られた土俵の中で、今も覇権争いに邁進しているのです！
- ◇こうした現代の錯綜した時代を克服することを可能とする新人類の誕生とその健全な育成をもたらす時代精神が要請されているのです。
- ◇とは言いながらも、一方では、こうした憂慮すべき時代を直視し、これまでどっぷりと浸かってきた不透明な【エピステーメー＝知の枠組み】から脱皮し、明晰な活動を目指している有識者が現われてきていることを看過してはならないのです。
- ◇及ばずながら、「食と健康の世界」で、「食の科学」の有り様に迷っている我が国の事態を憂え、健全な健康長寿社会の構築と発展に寄与する「新しい食と健康の科学」の創成と進展を目差して「NPO法人21世紀の食と健康文化会議」は、精一杯活動してきました。
- ◇そうした活動を通して本NPO法人として、特定保健用食品(トクホ)の制度化に当たって、トマス・クーンが提起していた科学者のパラダイムを重視する「科学革命論」に則った活動を積極的に支援し、「トクホ」の制度化と進展にも貢献してまいりました。

◇しかし、特に健康な社会を目指している研究と普及に従事している科学者にとって、新型コロナ・ウイルスのパンデミックの実態に遭遇し、『食』という範疇を超えた『生命科学』という広角的視野から活動に取り組むべきではないのか、という考え方に立って、本「NPO法人」の体制や活動を抜本的に刷新するという視点から、有識者とのネットワークを強化して、幅広い関係領域で活躍されているオピニオンリーダーからなるアドバイザリーボードとしての協力を得るとともに、若手科学者との連携を強化した新しい体制を構築しながら活動することが絶対に必要だと考えています。

◇これからの本「NPO法人」の活動基本コンセプトの起点・基点は、ウイルスで代表される微生物感染の初期発生を未然に防ぐことにあります。

◇現在も、猛威を振っている新型コロナ・ウイルスのパンデミックは、抜本的な対策を講ずることをしないでいれば、近い将来生命圏としてのガイアの生態系を破壊に落とし入れる危機的状态を秘めていることを示唆しています。

◇こうした事態を未然に回避するためには、抜本的な意識改革を基盤とする堅固な対策を講ずることが、〔生きもの〕全体、畢竟人類に課せられた喫緊の命題なのであります。

◇こうした超越論的視野に立って、立ち上げたのが『エコ・ライフサイエンス研究会』なのです。

◇本「研究会」の活動基本コンセプト(起点と基点)は、【ガイアを構成する〔生きもの〕全体の調和の取れた共存を希求すること】にあるのです。

◇これまでの本「NPO法人」の活動は「食と健康」領域が中心でした。

◇しかし、ウイルスの法外な生命力に裏打ちされた新型コロナ・ウイルスの法外なパンデミックが出現しました。

◇それだけに止まらず、

①感染発現や感染後遺症、更にワクチン多接種に起因する免疫体系の機能の乱れなどの全貌が全く解明されていないことから適確に対処できない自然科学。

②それに振り回されている行政施策の実態。

③そのような事態を招いている米国のCDCの実状を十分に調査もせずに、現在のCDCの日本版と称した、我が国の危機管理庁の新設という、長期展望に立った新規な発想に乏しい行政施策。

④プーチンで代表される身勝手なイデオロギーと覇権主義に染まった政治家の無謀な行動を許している国連などの国際調整機関の無力な実態。

⑤資本主義を牽引する主要国の経済的事情に基づく協調体制の乱れや食糧の安定供給に窮している健全なグローバル体制の崩壊。

など、今や我々は未曾有な混乱状態の増埒と化した世界の中に彷徨っています。

◇人類の意識変革、なかんずく生命に関わる科学者の意識変革を基盤とする活動領域の拡大は、こうした喫緊の事態を克服するためには必須な事態となっているのです。

◇しかしながら、こうした意識変革は決して容易には起きないのです！

- ◇まさに、抜本的な意識改革を基盤とする堅固な対策を講ずることが〔生きもの〕全体、畢竟人類に課せられた喫緊の命題なのです。
- ◇こうした長期的・広角的視野に立って、立ち上げたのが『エコ・ライフサイエンス研究会』です。
- ◇上述したように、本「研究会」の活動基本コンセプト(起点と基点)は、ガイアを構成する〔生きもの〕全体の調和の取れた共存を希求することにあります。しかし、この大きなテーゼは、半世紀から一世紀以上にも及ぶ挑戦を必要とするでしょう。
- ◇つまり、この【大きな物語】を適宜成果を出していく【小さな物語】で支えていくという構造を基盤とする方法論が要請されているのです。
- ◇こうした一連の構想を現実態のものとして実現していくためには、豊かな経験と知識をもつ科学者と新しい創造性に満ちた若手科学者の健全な融合、特に中堅から若手科学者からなる燃える集団を創ることが必須なのです。それを可能とするためには若手科学者のリテラシーを高めなければなりません。
- ◇本「研究会」では、こうした要請に答えるべく中堅から若手研究者を中心とする【若葉会】を創設し、勉強をも兼ねたシンポジウムを適宜開催していくことにします。
- ◇しかし、情報管理の都合から非公開シンポジウムと公開シンポジウムといった二つの形式で運営することになるとおられます。
- ◇各位におかれましては、本「シンポジウム」に是非御参加頂き、このような本「研究会」の設立趣意と有意義性を御理解頂き、御協力頂きますよう心底より期待致しております。 【完】

第1回公開シンポジウムの開催プログラム

『〔生きもの〕全体の健全な共生に貢献する生命科学の発展に向けて』

プログラム

2023年2月7日開催予定

【あいさつ】 13:00～13:30

『エコ・ライフサイエンス研究会の〔大きな物語〕と〔小さな物語〕からなる趣旨説明』

「NPO法人21世紀の食と健康文化会議」 理事長 島崎秀雄

『シンポジウムに向けて』

「財団法人食の安心安全財団」 理事長 唐木英明

【基調講演 I〔小さな物語〕の第1テーマ】 13:30～14:30

『もっと〔健康〕に寄与できる〔新しい栄養学〕を目指して』

【講演者】

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 センター長 國澤純先生

【基調講演 II〔小さな物語〕の第2テーマ】 14:30～15:30

『〔地球環境〕との調和を目指す〔家畜産業〕の発展を目指して』

【講演者】

大学の生命科学関連部門で家畜を研究対象とする研究者 東北大学大学院教授 野地智法先生

【座談会〔大きな物語〕のテーマ】 15:30～17:00

『これからの生命科学のあり方を考える

—中村丁次先生が提唱する〔JAPAN NUTRITION〕の優れた特性を起点として—』

【談話者】

神奈川県立保健福祉大学学長 中村丁次先生

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 センター長 國澤純先生

東北大学大学院教授 野地智法先生

【司会】

「NPO法人21世紀の食と健康文化会議」 理事長 島崎秀雄

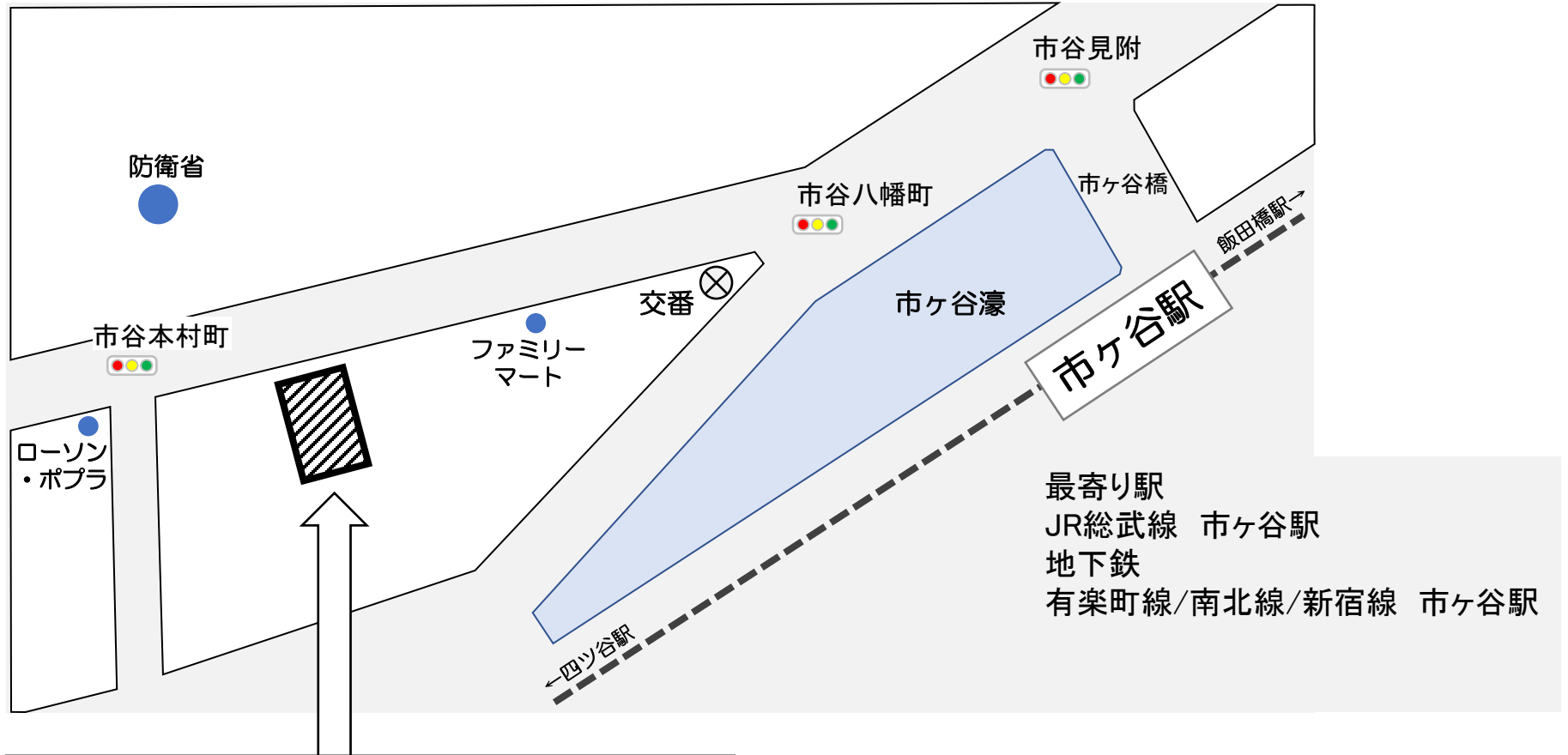
【これからの本研究会の進め方について】 17:00～18:00

【説明者】

「NPO法人21世紀の食と健康文化会議」 理事長 島崎秀雄

シンポジウム会場案内図

会場
東京法経学院／大教室
土地家屋調査士等専門学院



東京都新宿区市谷本村町3-22ナカバビル1F
電話:(03)-6228-1453
URL:<https://www.thg.co.jp>

■プロデューサー〔本NPO法人理事長〕の経歴

昭和37年 東京大学大学院化学系(薬学部) 修士課程卒業

昭和42年 薬学博士(東京大学)

- 昭和37年－昭和54年 : 味の素株式会社
・中央研究所研究員 ; アミノ酸の光学分割、食品香気成分の研究と食品への応用、風味調味料「ほんだし」の商品開発
・中央研究所 主任研究員 ; 大豆蛋白の新規事業化に従事
・本社開発企画室 課長 ; 動・植物エキス事業化及びチルド食品事業化推進
- 昭和54年－昭和55年 : 日研フード株式会社
・商品開発室 室長 ; 天然調味料の開発研究と商品化への応用研究
- 昭和55年－平成4年 : 鐘紡株式会社
・食品本部 課長 ; 商品化戦略立案、商品開発、飲料ベンダー展開企画立案及びチルド食品事業化推進
・食品研究所長付 ; 研究開発・技術開発戦略及び中・長期実施計画立案
・生化学研究所 部長 ; 研究開発戦略立案、特定保健用食品関連テーマの推進と申請活動、機能性食品連絡会の技術部会長として行政・業界・学者と連携した特定保健用食品（トクホ）制度推進活動に従事
-

ヘルスケア(特に食品分野)を中心とした、企業・事業・研究開発・技術開発・商品開発・
マーケティング戦略立案と具体的実践方法に関するコンサルティング活動に従事

平成5年－平成10年4月 : 株式会社関西新技術研究所 (大阪ガスグループ/シンクタンク)

・主席研究員

平成10年5月－平成11年4月 : コンサルタントとして独立

平成11年5月－現在 : 有限会社 食の科学とマーケティング研究所設立運営

・代表

食の期待される生理学的な効能効果を活用した

食生活を基盤とする健全な健康・長寿社会の構築を目差した活動に従事

平成19年11月－現在 : NPO法人21世紀の食と健康文化会議設立運営

・事務局長を経て、理事長に就任、今日に至る

◎エコ・ライフサイエンス研究会

第1回シンポジウム

〔開催日：2023年2月7日〕

参加申込書

氏名	
現住所	〒 - 都道府県 市区
所属団体	
電話番号	

※メール宛先 ①(本部) 島崎 shimazaki@21shoku-ken.jp
②(事務局) 春原 sunohara@csi-net.co.jp